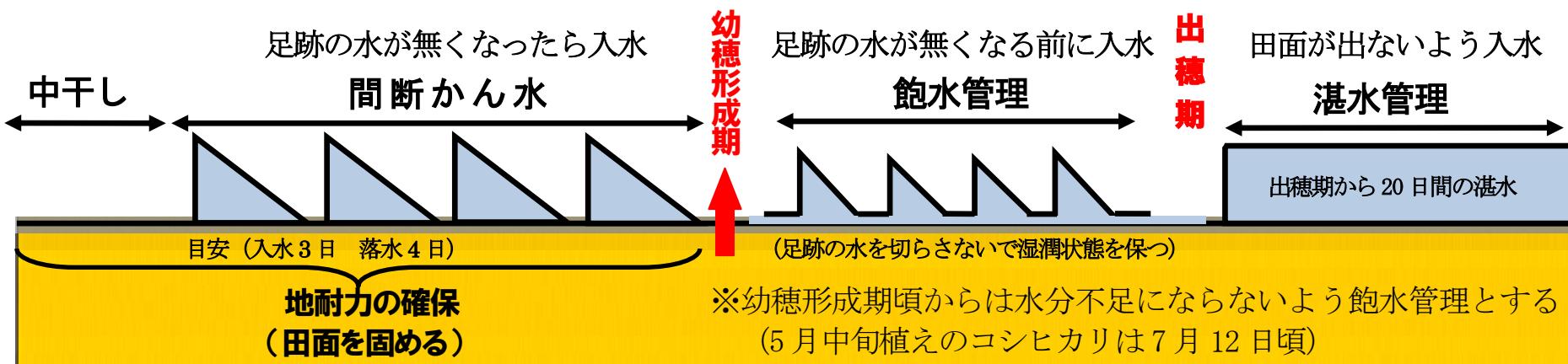


- *中干し後の水管理は、「間断かん水」、「飽水管理」により、稲の活力を維持する。
- *畦畔や雑草地の草刈りを徹底し、斑点米の原因となるカメムシ類の発生を抑える。

6月中旬の水稻の生育は平年より遅れ気味に推移しており、コシヒカリの茎数は平年より少なく推移しているものの、葉齢を揃えて比較すると概ね平年並みの生育となっています。てんたかくの、幼穂形成期は平年より2日程度遅いと見込まれます。

1. 中干し後の水管理

~「間断かん水」ののち「飽水管理」とする!~



- 中干しが不十分な場合は、繰り返し田干しを実施しましょう。
てんたかくは6月25日頃まで、コシヒカリは7月10日頃までに足跡の深さが3cm程度になるように地固めましょう。
- 幼穂形成期以降は飽水管理とし、強い田干しはしないようにしましょう。
(飽水管理は「ほ場に入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。)
- 出穂後20日間は湛水管理を行いましょう。

2. 「てんたかく」の穗肥と葉色

~穂揃期の葉色は4.5に誘導する!~

○基肥一発肥料の場合

原則として追肥は不要ですが、幼穂形成期前後（6/25頃）に葉色が4.2以下まで低下した場合は、追肥3号で10kg/10a（N成分：1.5kg/10a）程度の追肥を早急に行い、穂揃期の葉色を4.5に誘導しましょう。

○分施の場合 …追肥3号の施用時期及び施用量の目安（5月上旬植えの場合）

穂揃期の葉色を4.5に誘導するため、穗肥は遅れずに施用しましょう。

分施 体系	回数	1回目	2回目
	施用時期	6/25頃 [幼穂長1~2mm]	1回目の10日後
	施用量	10a当たり10~12kg	10a当たり12~13kg

コシヒカリ、てんこもりの
穗肥については
次号でお知らせします

3. ケイ酸の補給

~ケイ酸を補給して稻体を丈夫に!~

- 入水後、7月5日頃までに下記のいずれかの資材を施用し、稻体の活力を向上させましょう。

- ・PKけい酸（20kg/10a）・エスアイ加里らくだ（15kg/10a）
- ・エスアイ加里カリ投げくん4kg/10a（200g×20パック）

※JAあおばのおすすめ資材です。（5cm以上の湛水状態にして水田にパックを投げ入れるだけ）

ケイ酸の効果

- ①根の活力を高める
- ②フェーン時に水分の蒸散を防ぐ
- ③茎葉を丈夫にし倒伏を防ぐ
- ④受光体勢を良くし登熟を高める

カメムシ対策 第4回

草刈運動期間 7月1日～7月10日 一斉草刈日 7月3日（土）～4日（日）

1. 草刈りの徹底

～格下げの主要因はカメムシによる斑点米！！～

◎カメムシによる斑点米被害を防ぐには・・・
畦畔等の草刈りの励行と基本防除が不可欠です。
また、ほ場内にノビエやホタルイが残っていると
被害を助長するので抜き取り等も行いましょう。



アカヒゲホソミド アカスジカスミカメ クモヘリカメムシ
リカスミカメ

草刈りの方法

- ・斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを徹底し、一斉草刈り後も雑草の穂が出ないよう草刈りを継続しましょう。
- ・大麦跡に作物の作付けを行っていない場合は、雑草等が繁茂しないように7/10頃までに耕起しましょう。



カメムシ類が好む主なイネ科雑草
(左:ナギナタガヤ 右:メヒシバ)

安全な草刈り作業

- ・草刈り作業の際は防護具を装着し、小石等の飛散による被害を防止しましょう。
- ・高い畦畔では途中に小道をつけるなど、足元をしっかりと確保しましょう。
- ・1時間に1回は5分以上の休憩を取るとともに、水分補給も十分行い、熱中症の防止に努めましょう。



2. 追加防除

○追加防除が必要なほ場は次のとおりです。

① てんたかくで紋枯剤が含まれていない箱粒剤を施用した場合

- ・防除時期：6月29日頃
- ・防除薬剤：モンカットファイン粉剤20DL(4kg/10a)
又は、
バシタックゾル(1,000倍、100～150ℓ /10a)

ルーチンブライト箱粒剤を施用している場合は不要です。

② 住宅地など粉剤散布が困難なほ場での粒剤体系による防除

- ・防除時期：てんたかく 7月10日頃
コシヒカリ 7月26日頃
- ・防除薬剤：イモチエースキラップ粒剤 (3kg/10a)

やや深めの湛水状態で散布。
散布後7日間は落水やかけ流しをしない。